

・高等教育機関の沿革

東京農工大学は農学部と工学部およびその大学院からなる全国的にも珍しい構成の大学である。農学部は府中市に、工学部は小金井市にあり、農学系の学生は約2千人、工学系の学生は約3.5千人在籍している。工学部は繊維学部由来のため、繊維学部を持った京都工芸繊維大学、信州大学と深く交流がなされ、この3大学は三織大と呼ばれてきた。

東京農工大学の発祥は古く、明治7年(1874)内務省勸業寮内藤新宿出張所(農事修学場、蚕業試験掛)が前身となっている。

農事修学場は目黒区駒場へ移り駒場農学校として設置された。さらに駒場農学校は農商務省東京山林学校と統合し、農商務省東京農林学校に、その後、帝国大学農科大学、東京帝国大学となった。

昭和10年、東京帝国大学農科大学本科は第一高等学校(千代田区弥生)と敷地交換して、東京帝国大学農学部、現在の東京大学農学部となっていった。残された農科大学付属の農業教員養成所は筑波大学生命環境学群生物資源学類へ、農科大学農科大学乙科(実科)は演習林のあった府中へ移転して東京高等農林学校、東京農林専門学校へと派生していった。

一方、内務省勸業寮内藤新宿出張所の蚕業試験掛は千代田区麴町へ移転し、農商務省蚕病試験場となり、当時世界規模で蔓延していた微粒子病の研究や防除等の実務に従事する検査員の養成を行った。しかし、3年後には北区西ヶ原に移転し蚕業試験場となった。蚕病試験場の跡地には現在帝国ホテルが建っている。

蚕業試験場は農商務省仮試験場蚕事部、蚕業試験場、蚕業講習所、東京蚕業講習所、東京高等蚕糸学校へと変遷しつつ蚕糸研究と技術者の養成を行ってきた。昭和15年には現在の小金井キャンパスのある小金井市に移転し、東京繊維専門学校になった。

昭和24年に大学設置法案による大学改革が検討され、東京繊維専門学校と東京農林専門学校が統合して専門学校から大学に昇格して東京農工大学(繊維学部と農学部)が設立された。その後、繊維学部は養蚕学科が農学部に移転し、繊維学部は工学部に名称が変わり、現在に至る。

1874	1877	1878	1881	1882	1884	1886	1890	1896	1898	1914	1919	1935	1940	1944	1949	1962	
M7	M10	M11	M14	M15	M17	M19	M23	M29	M31	T3	T8	S10	S15	S19	S24	S37	
蚕業試験掛 内務省勸業寮内藤新宿出張所		農事修学場 新宿		農商務省蚕病試験場 千代田区		蚕業試験場 西ヶ原		蚕業講習所		東京蚕業講習所		東京高等蚕糸学校		東京繊維専門学校		工学部	
農務省東京農林学校		農務省東京農林学校		農務省東京農林学校		農務省東京農林学校		帝国大学農科大学実科		帝国大学農科大学乙科		東京帝国大学農学部実科		東京農林専門学校		東京農工大学 農学部	
内務省樹木試験場 西ヶ原		農務省樹木試験場		農務省東京山林学校		農務省東京農林学校		帝国大学農科大学実科		東京帝国大学農学部実科		東京高等農林学校 府中へ移転		東京農林専門学校		東京農工大学 農学部	